

いましあわせよ

一宮市立大和東小学校二年

角田 りん

大きいばあばは、なんとも同じことを聞いてきます。「にんちしようというののびよう気なのよ。」とおかあさんがおしえてくれました。今は、わたしのいえのちかくのグループホームでくらしています。

わたしが二年生になったことは、すぐわすれてしまうので、二年四くみになったことをなんども話します。いもうとは、ほいくえんにいっているけれど、ようちえんのことを聞いています。なんとも同じことを聞くことは、しりたい気もちがあるからだと思います。わすれてしまうのは、かなしいです。さっきも同じことを聞いたのにも思います。でも、思い出せないのは、とてもくるしいことだと思います。「さっきも言ったよ。」と言うことは、言わないやくそくです。大きいばあばが、わすれないようになんかいつでも話したいです。

大きいばあばは、お手玉がとてもじょうずです。かた手で四つもまわします。大きいばあばの小さいころは、中にあずきを入れて、じぶんできつくついていたとおしえてくれました。今はまめではなく、ビーズが入っていました。わたしは、りよう手でふたつまわすのも、すぐにおちてしまいました。大きいばあばは、にこにこわらって、とてもたのしそうでした。

年まつには、みんなでおもちをつくりました。大きいばあばは、りょうりがじょうずです。しよくどうで、はたらいていたことをおしえてくれました。やさいをもちつけるとき、むきがそろっているので、おいし



そうです。「あじがしみておいしくなるのよ。」とだいこんにいれるかくしほうちようを見せてくれました。グループホームでもりょうりは、大きいばあばがよくつくるそうです。グループホームもたくさん人がいるので、「みんなでたべるとおいしい。」とうれしそうでした。大きいばあばは、「今しあわせよ。」と言いました。やさしいかおでした。大きいばあばがしあわせをわすれないように、またあそびたいです。